

123
2
69

東京圖書館

二冊	二 几 號	三 三 架	一 三 函	和書門 土木類
----	-------------	-------------	-------------	------------

066482-001-6

123-69

匠家雛形

本林 常将 / 著

M8. 5

CDC-0097



匠家雛形
上

本林常將著

新撰
早引
正

圖書集成

類二藝
屬二建
冊二六
函二五
行二六
級二六

雛形

東都書林

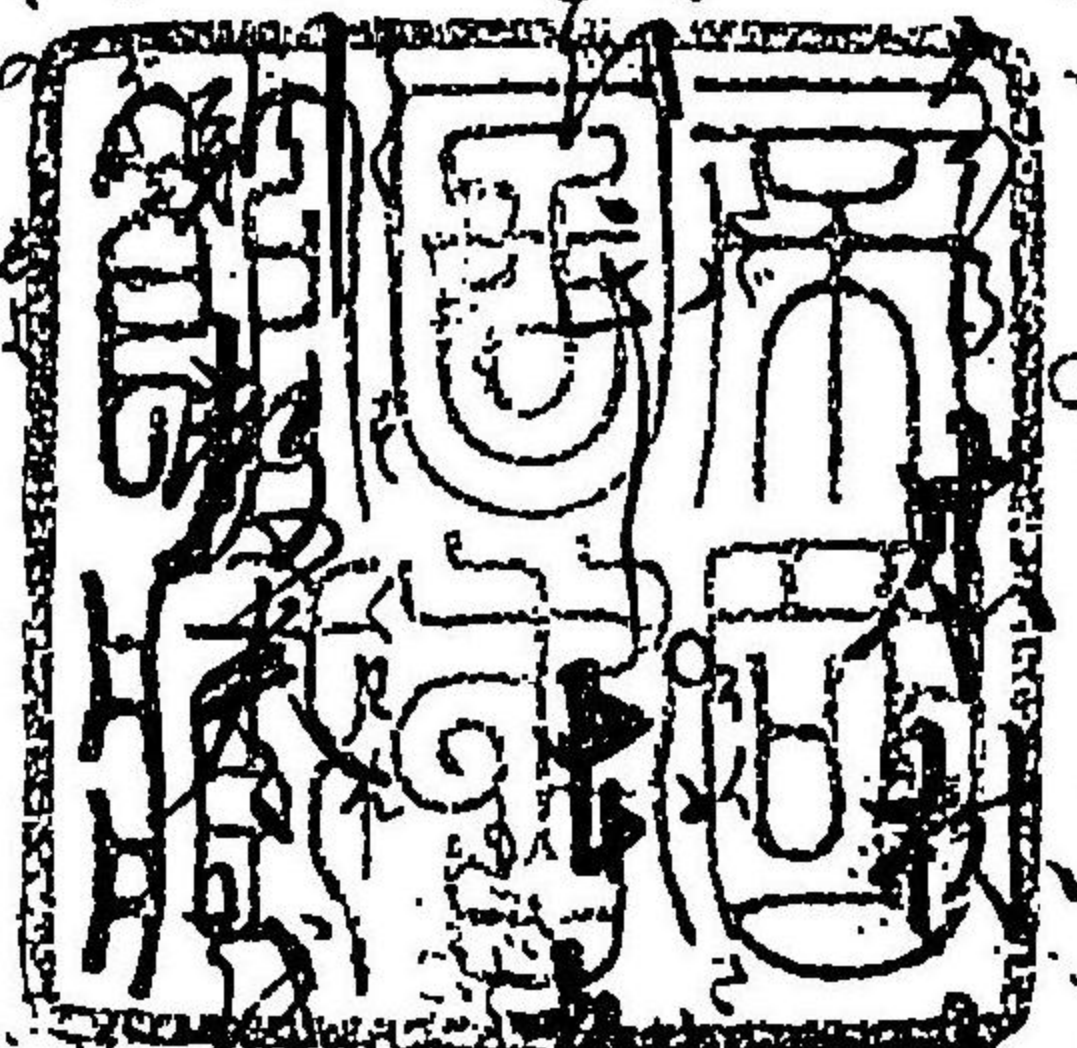
千鐘房
一貫堂
合梓

明治十七年六月廿八日

近家雛形序

首上の花形

東夷塾



其概畧若む家
其概畧若む家
其概畧若む家

常將累年子弟の
常將累年子弟の
常將累年子弟の

其概畧若む家
其概畧若む家
其概畧若む家

了りた
了りた
了りた



庸子と云ふは、（一）徳の公輸（二）の
 手（三）材（四）の功（五）と云ふは、（六）徳の公輸（七）の
 相（八）材（九）の功（一〇）と云ふは、（一一）徳の公輸（一二）の
 執（一三）剛（一四）の功（一五）と云ふは、（一六）徳の公輸（一七）の
 言（一八）と云ふは、（一九）徳の公輸（二〇）の
 皇國（二一）の木（二二）徑（二三）と云ふは、（二四）徳の公輸（二五）の
 嘉（二六）と云ふは、（二七）徳の公輸（二八）の

嘉と云ふは、

徳の公輸

新增
早引

匠家雛形卷之上

目錄

一 明神鳥居

二 同笠木割合

三 四ツ足鳥居

四 同妻木口割

五 山王鳥居

六 柱木口ハツ中轉

七 三輪鳥居

八 三輪鳥居木口割

九 平屏重門

十 藥醫門

十一 棟門

十二 唐藥醫門

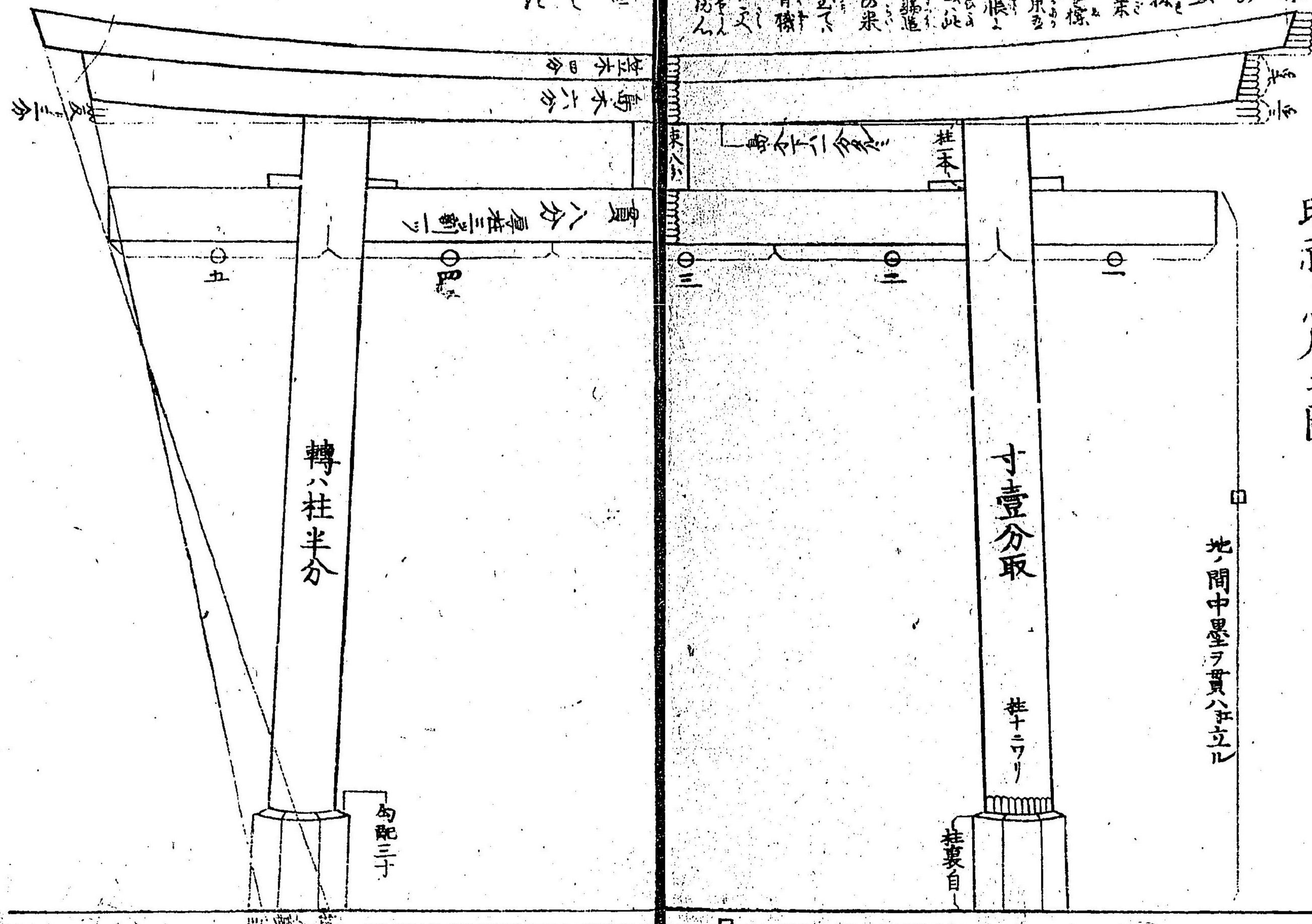
十三 二間半玄關

因て三波谷の神位は
 之の反つた右の柱
 の男位女位と云ふ候
 木と蓋木とを巻きの
 様まじり居しり
 此様本は法名の様
 と云ふまじり居る様
 あり其次の様まじり
 様と云ふ中に若く東多
 く入て又神宮儀成候
 凡ての事不詳候は此
 下は我々の山王三攝進
 木の鳥居及び門の果
 由祢守故実ホも必
 古事よ番よ一て有候
 家の儀よりなること
 一贊より此まじり居

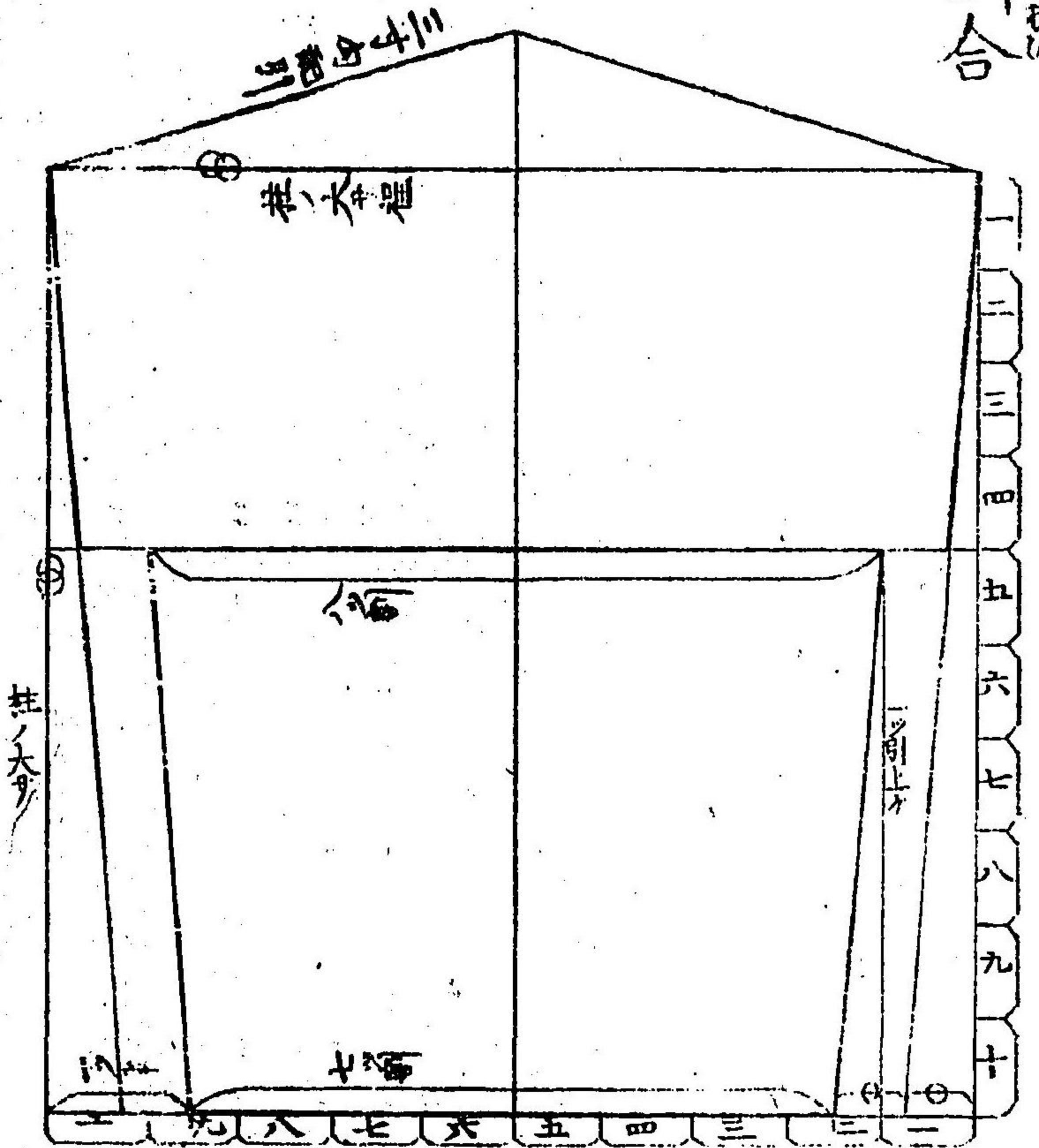
のるよまじり居て
 家の儀候と
 ありん

明神鳥居之圖

地間中墨ヲ貫八寸立ル



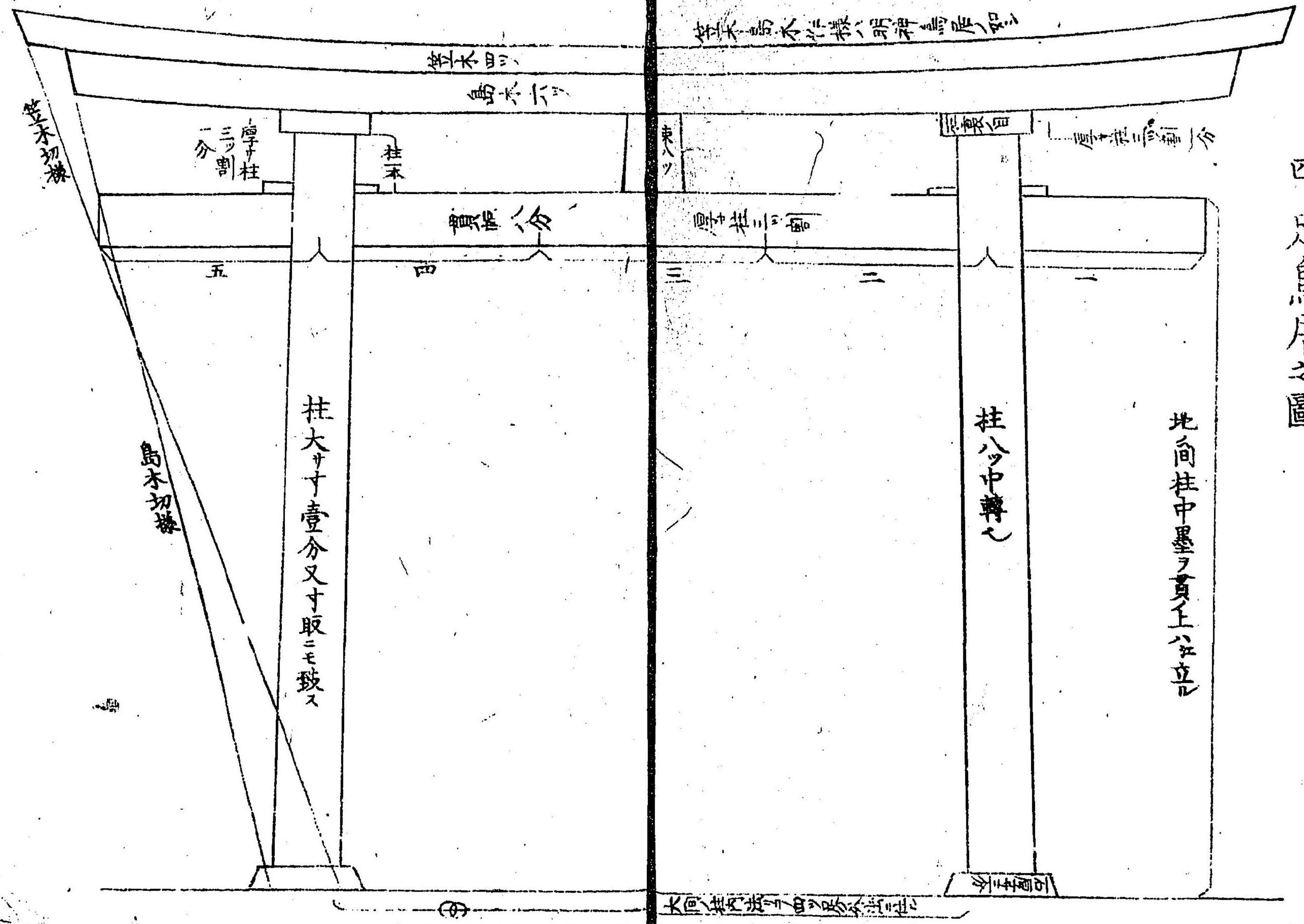
同笠木割合



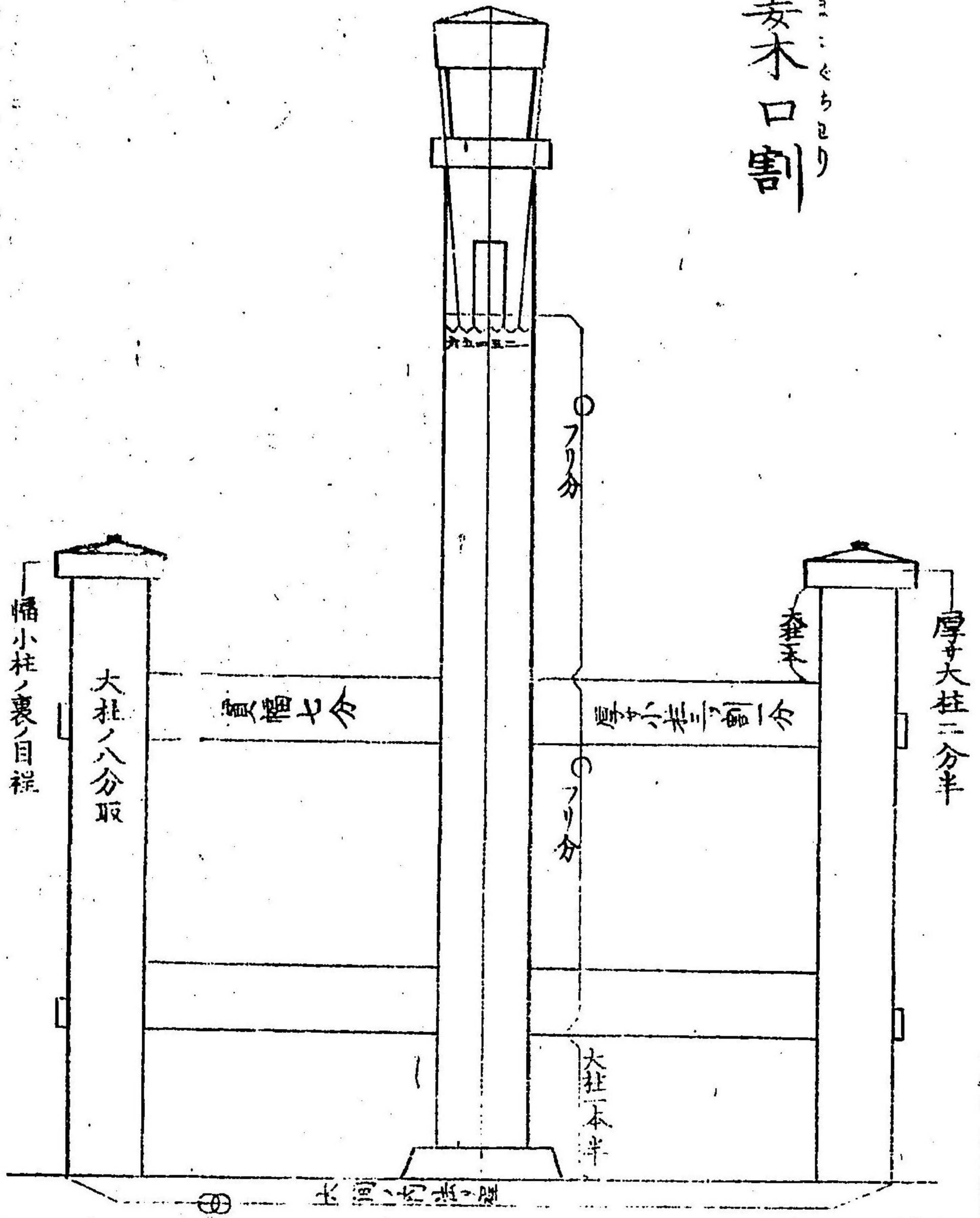
明神鳥居之事

一柱の大間にて小壹分取なり上壹分おろなり貫の幅八分厚サ柱三ツより壹ツノ貫長サ柱中墨三ツより壹分出るなり束の幅八分根包大サ柱裏之目高サも柱裏之目程同上バ勾配ハ三寸島木貫の間ハ柱壹本明キ笠木割合ハ柱十より笠木四ツ島木六ツなり反ハ島木小て半分右の鼻より壹分増シ有笠木の鼻ふと二分増シ有作り様ハ束の居所より壹分多るみ有様より作るなり

四ツ足鳥居之圖



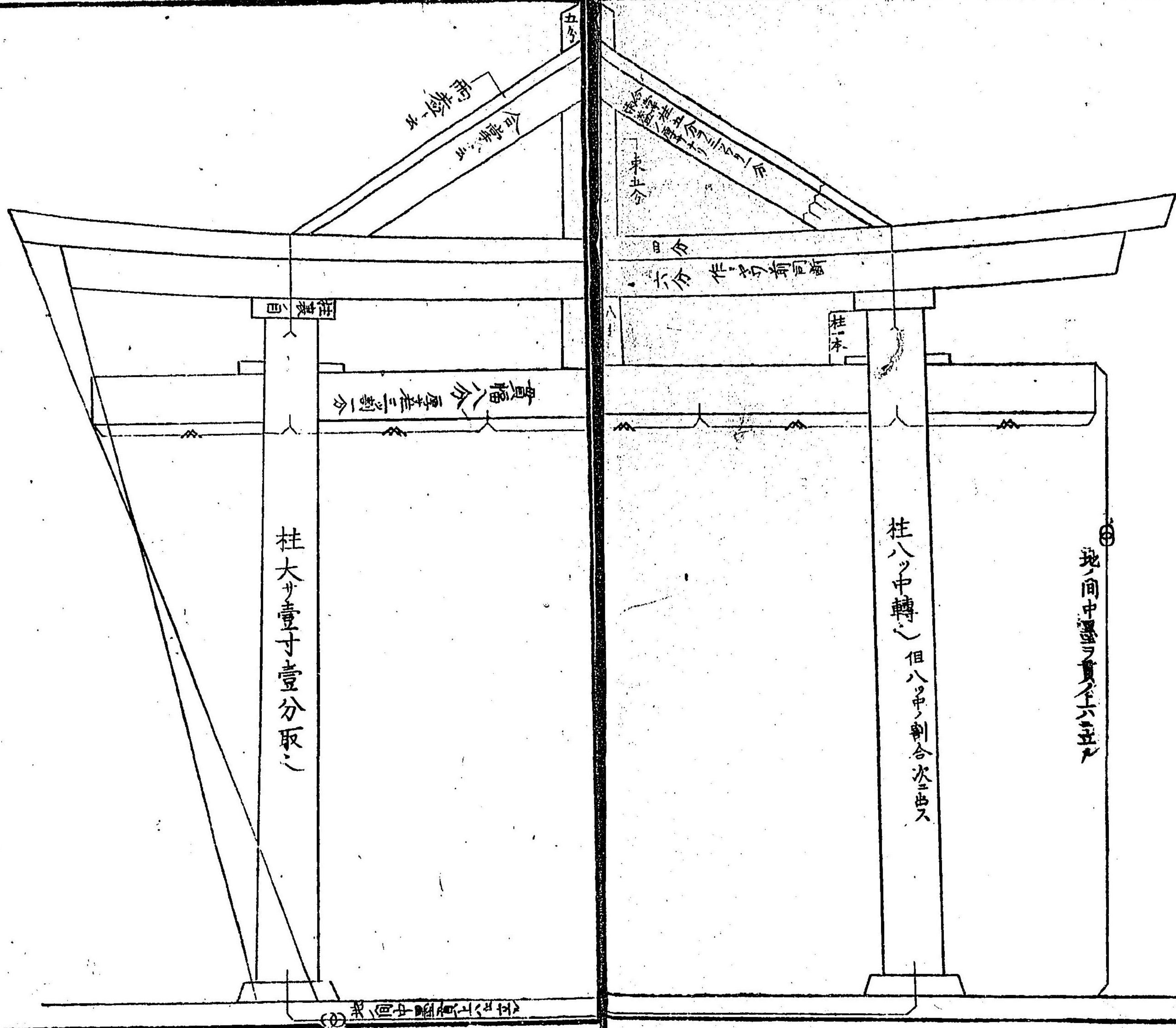
同妻木口割



四ツ足鳥居之事

一柱の大サ大間にて寸壹分取上壹分六ククなり貫のモ八分
 厚サ柱ニツ割壹分ノ貫の長サ柱中墨貫居所にてニツ割小て
 壹分貫長サ出ス也東八分上少シ細クもるノ柱口石犬サ幅柱
 裏の目程厚サ三分基輪大サ柱裏の目程厚サ柱ニツ割壹分ノ
 基輪と貫の間柱壹本挟ムノ高サ地の間柱中墨と貫の上バ
 ノ當ルノ笠木作様ハ東居所にて壹分緩リ作るノ反ハ島
 木半分同鼻ノ壹分増シ笠木四分島木六分ノ柱轉ハハツ中ノ

山王鳥居之圖



地ノ間中遷ラ貫全六五五

柱八寸中轉 但八寸ノ割合次ニ出ス

貫横八分厚三割一分

柱大少壹寸壹分取

柱一

柱一

柱二本

柱三本

柱四本

柱五本

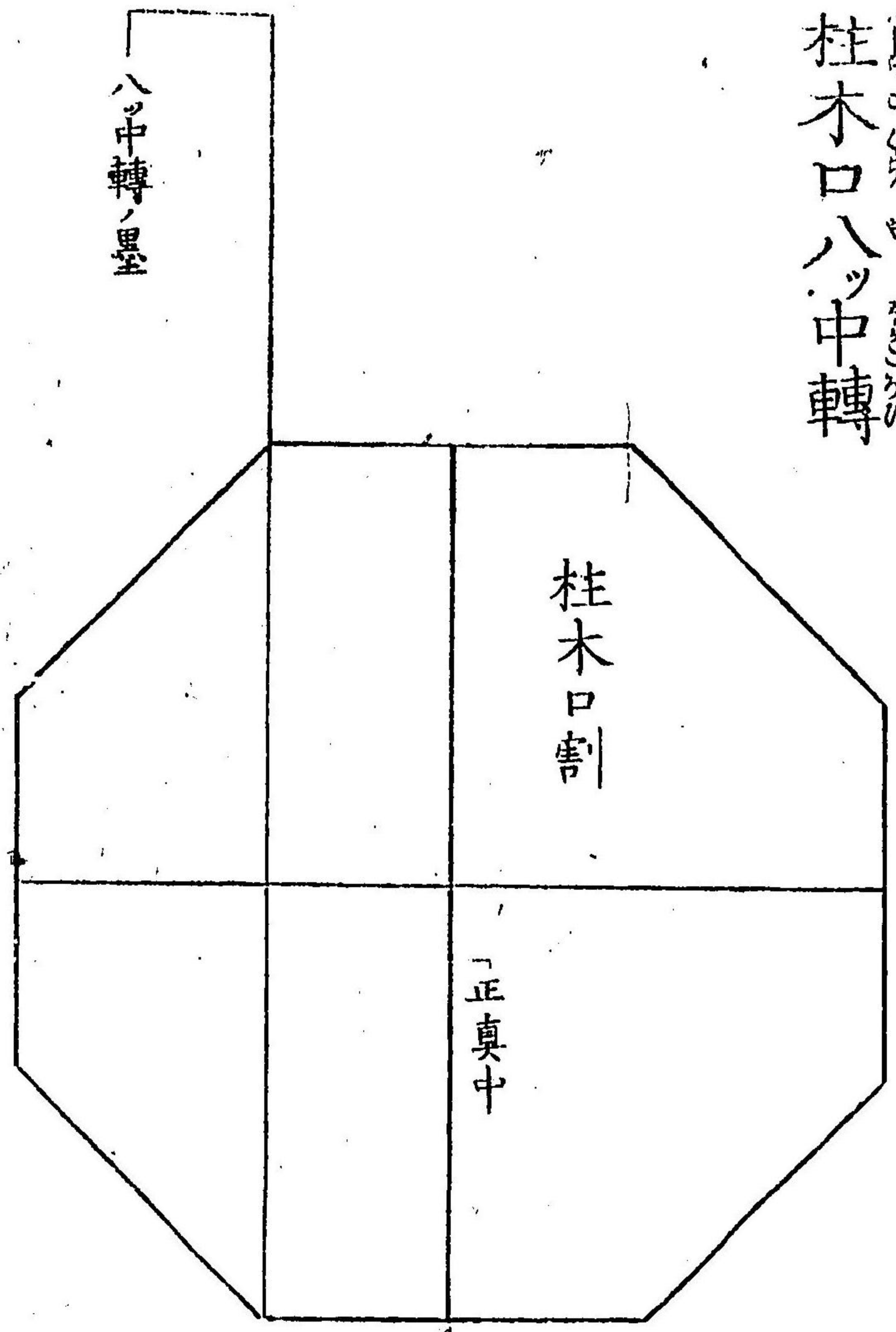
柱六本

柱七本

柱八本

柱九本

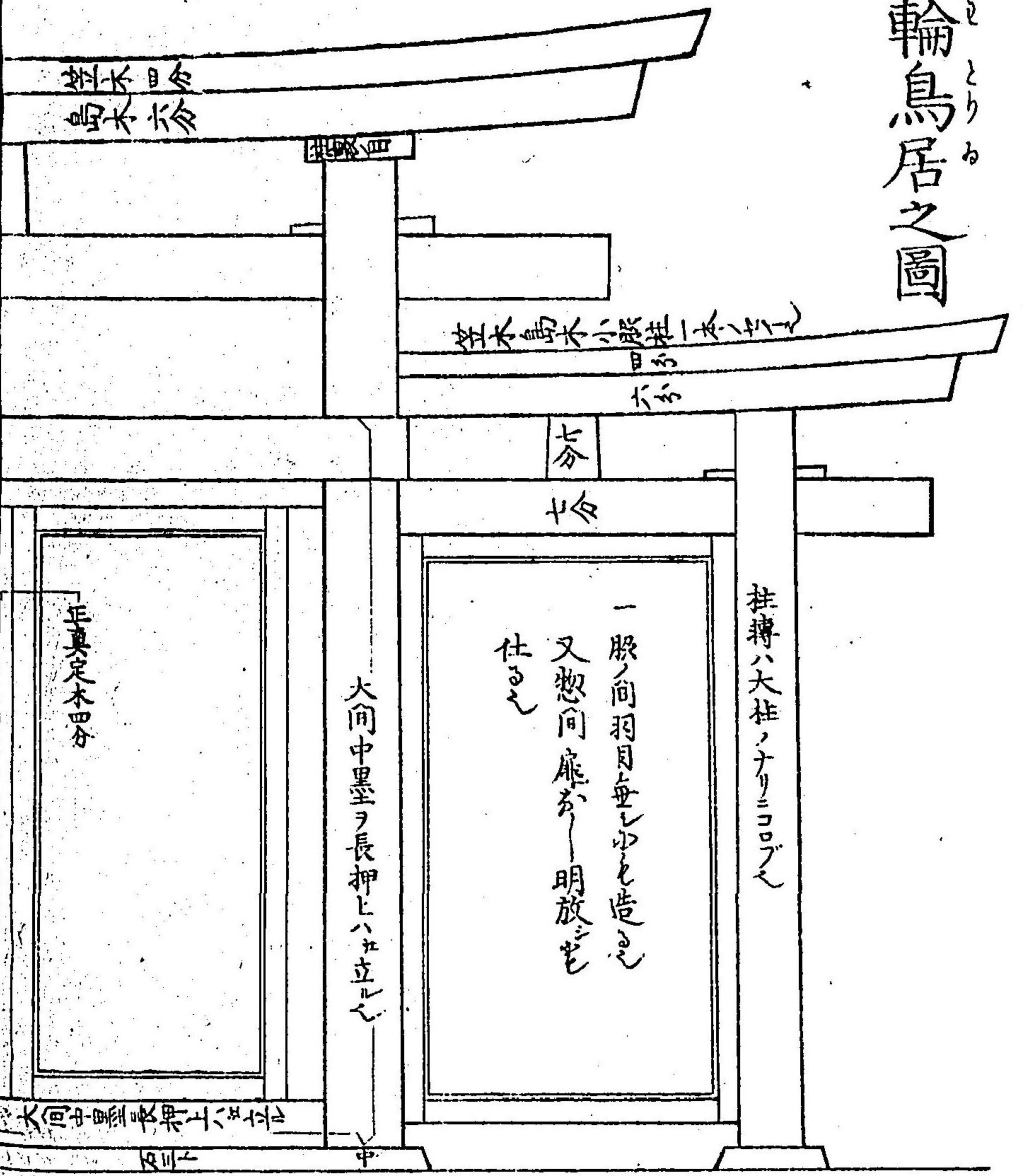
柱木口ハツ中轉



山王鳥居之事

一柱の大サ間よて壹寸壹分貫の幅ハ柱の八分厚サ柱三ツヨリ
 壹ツ之東八分上少シ細く一臺輪の厚サ柱三ツヨリ壹ツ之もぐ
 ハ柱の裏の目程笠木島木柱拾二割笠木四ツ島木六ツ之割
 合ハ常の如シ柱轉ハハツ中轉之合掌の大サ柱の五分右三ツ
 割壹分兩蓋の厚サ之東大サ五分上少シ細く一合掌上笠
 木五分ノ勢其木よて二分は一勾配ハ六寸五分又七寸ノ
 ても仕る立所ハ柱中墨ノ雨蓋の上バ當る様小作るなり

三輪鳥居之圖



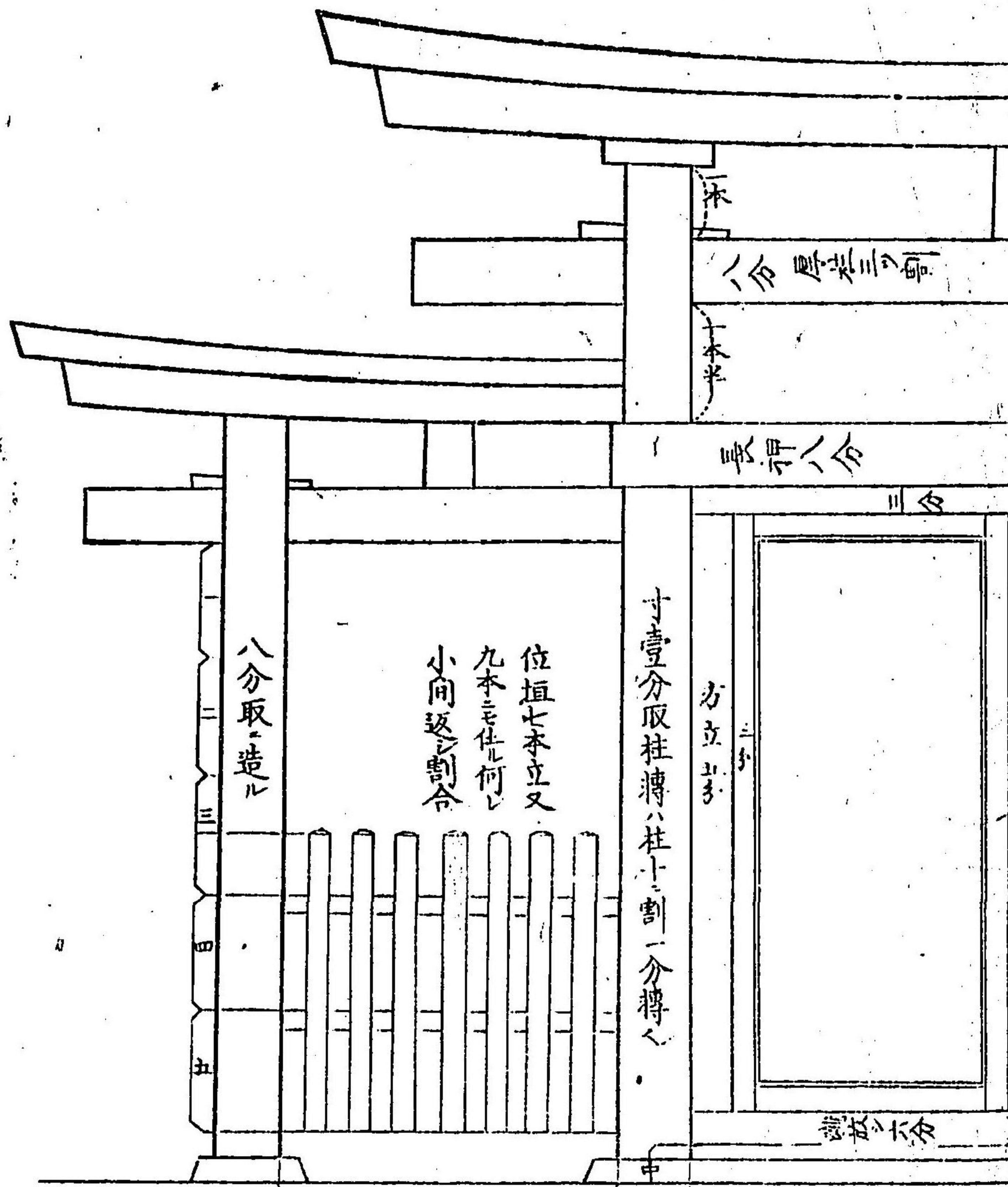
柱搏八大柱ノナリニヨブク
 一版ノ向羽目毎レ心と造ル
 又惣向扉カ一明放シモ
 仕ル

大向中墨ヲ長押トハセ立ル

正真定木四分

大向中墨長押トハセ立ル

成



寸壹分取柱搏八柱ト割一分搏

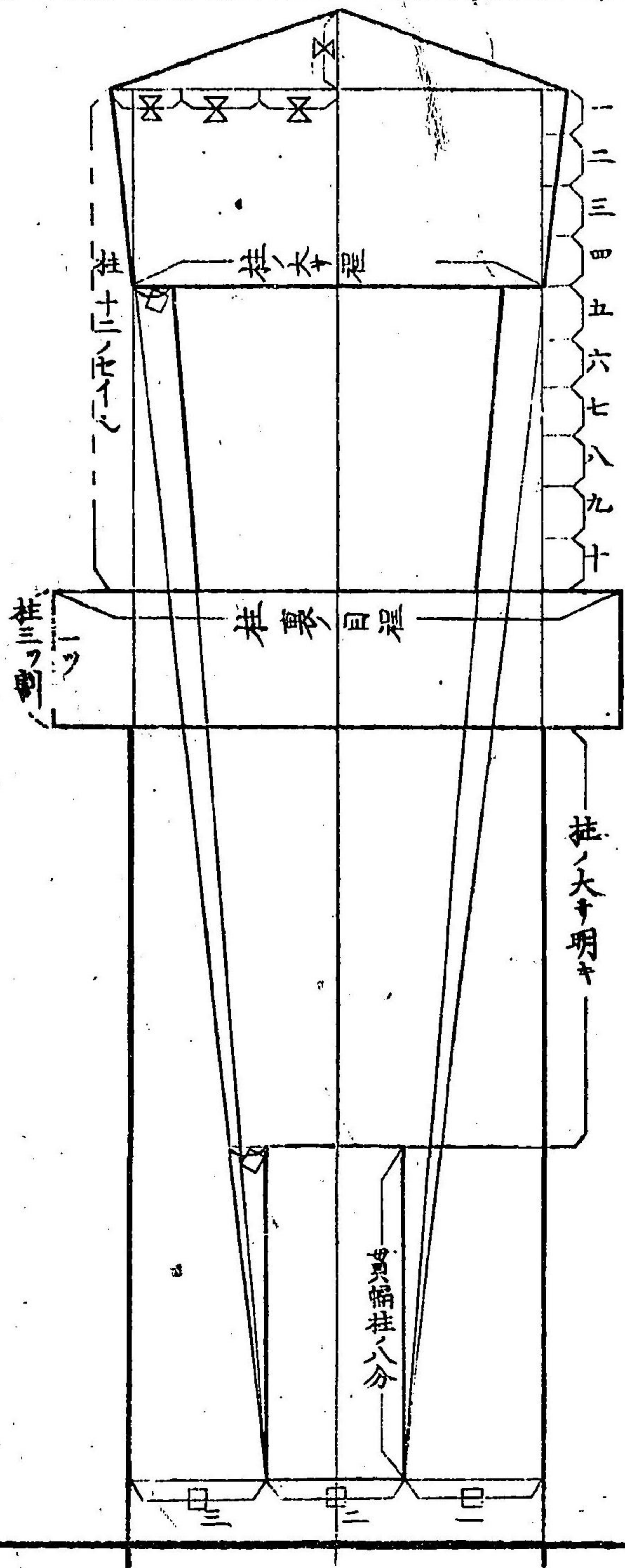
位垣七本立又
 九本モ仕何レ
 小向返割合

八分取造ル

大向内持半分

大向内持半分

三輪鳥居木口割

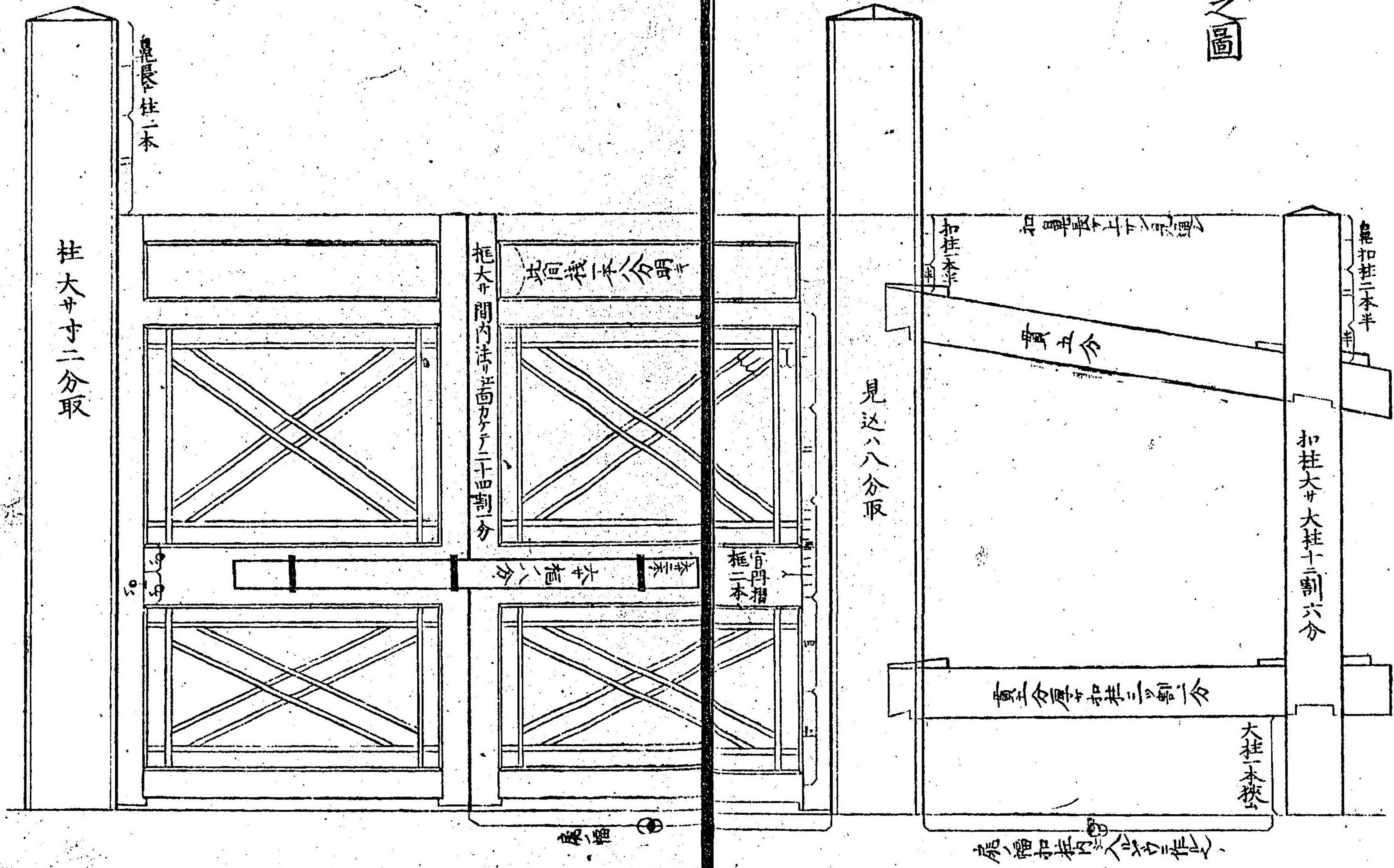


三輪造鳥居之事

一柱の大サ大間よて寸壹分取蹴放シ六分方堅五分間艸三分
 框三分長押八分柱貫八分厚サ三ツ割壹ツ貫と長押の間柱一
 本半貫と臺輪の間柱壹本扉定木四分臺輪大サ柱裏目厚サ
 柱三ツ割壹ツ小脇柱八分蹴放シ六分貫七分小脇笠木大サ
 小脇柱よて壹本笠木四ツ島木六ツ及り島木半分梟よ壹分
 増笠木二分増貫梟出ハ柱外面より柱二本出シ貫の長サ切
 る位垣の大サ間内よ七本立小間返割合九本立よ仕る

平屏重門之圖

ひらひら重門



平屏重門之事

一柱の大サ大間よて寸二分取見込八分但寸二分申八惣間中墨拾割拾二寸二分と申より柱鼻

の出ハ柱二本の出なり鼻の上三寸勾配よ切るよ扣柱大

大柱拾よより六分角之貫幅五分厚サ扣柱三ツより壹分

扣貫上バ扉上バより扣柱壹本半下て貫の上バよ致一扣

柱鼻長サ扉の上棧見通シ上ハ三寸勾配よ切るよ扣柱の鼻

より扣柱大サ二本半下ケて扣貫の上バよ致一足元貫ハ地

の上より大柱壹本挟く貫下バ之貫幅五分扣柱の立所ハ

扉ひらよて扣柱の内へ押込様よ扣柱を立るなり扉割

合ハ大柱の内法をかまらち面程かけて間内二十四よより

壹分框の大サなり見込ハ框の八分之割合ハ上棧より棧壹

本八分の明さ中棧より摺さん中墨五ツより中棧中墨よ

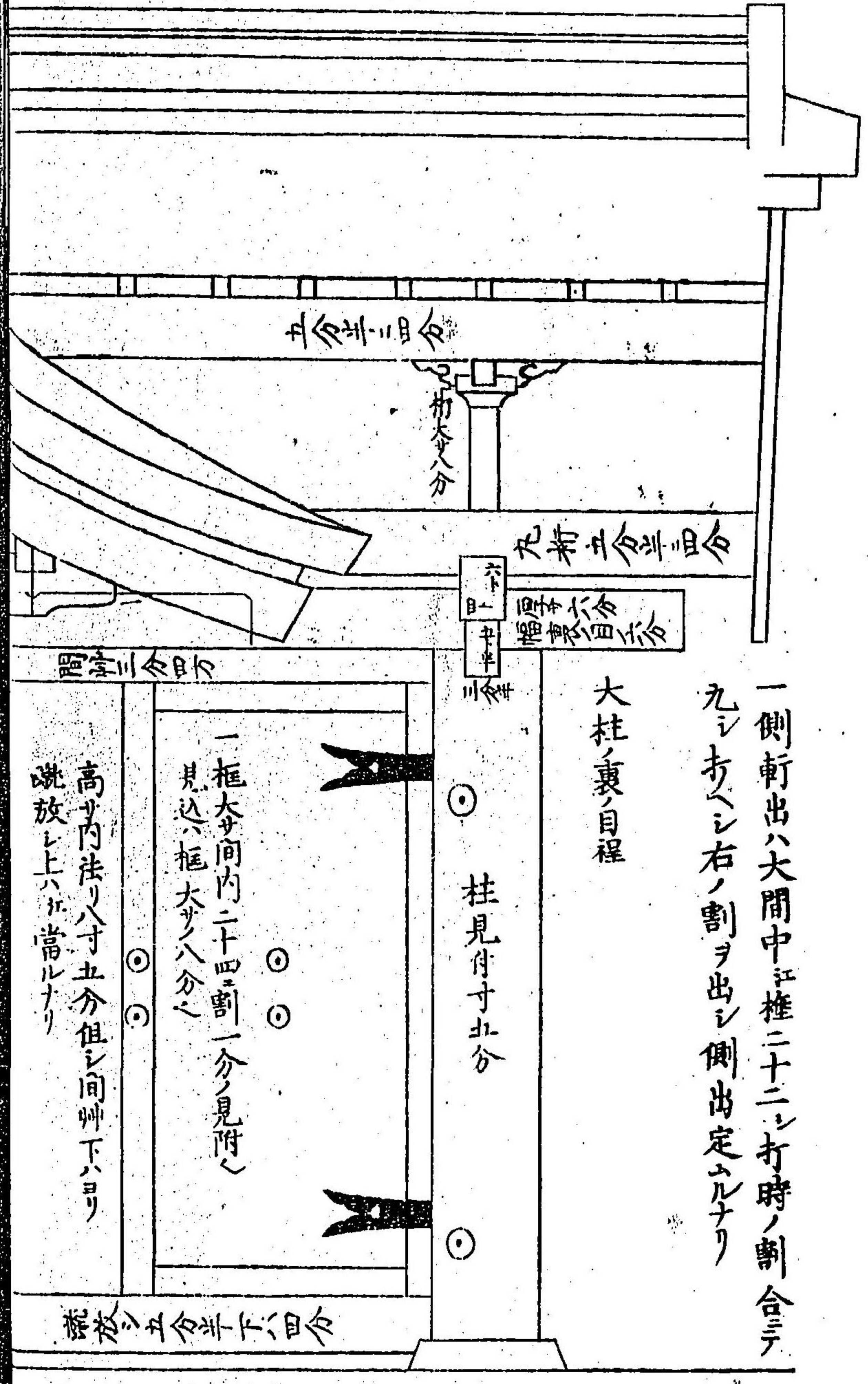
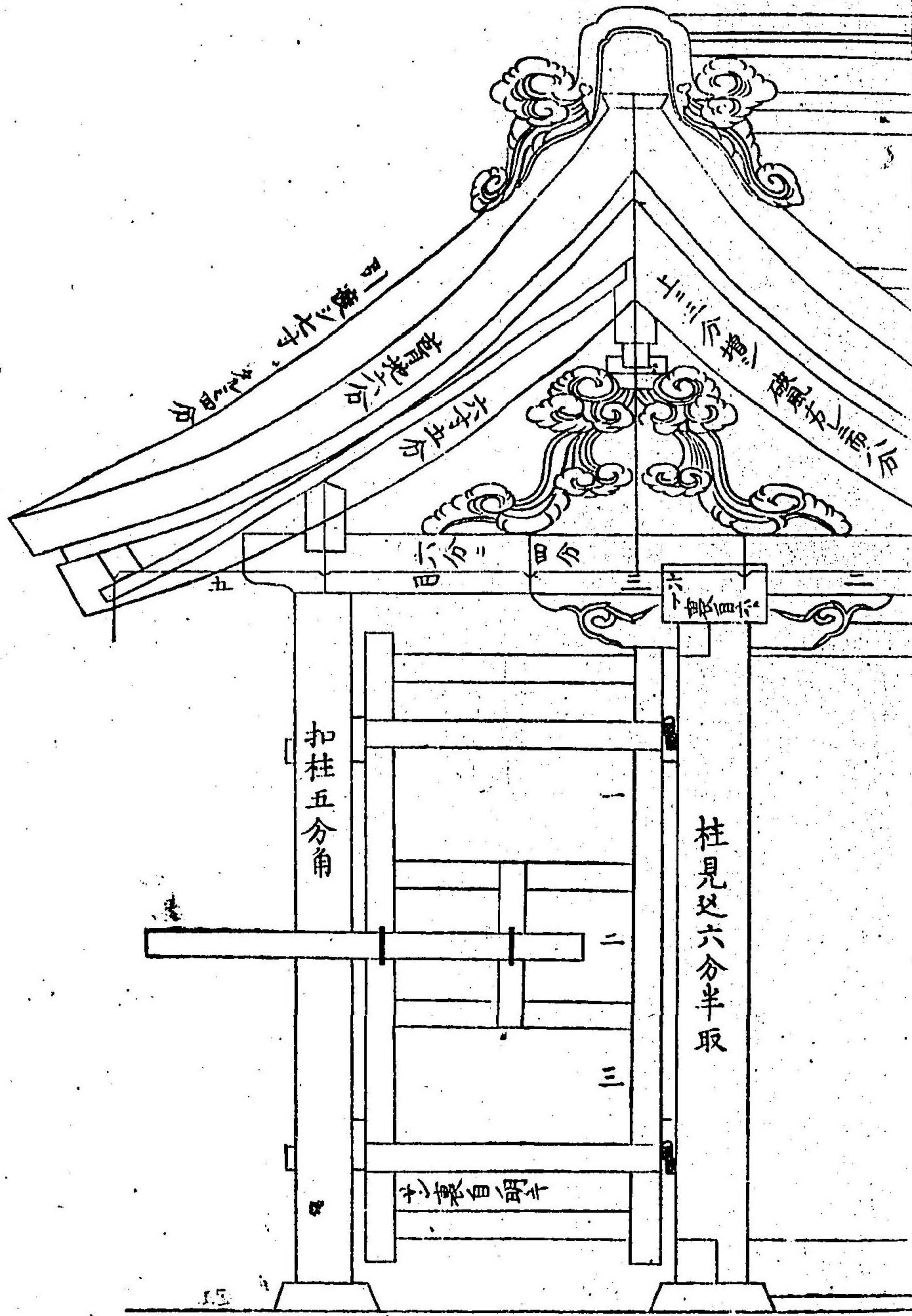
り二ツ八分よて門持の中墨よ定むるよ門持の大サさん

二本の大サくじんぬさの大サ框八分長サハ扉中門持鍔物の

真より其木大サ二本出シなつと多すさの大サ框四ツより壹分

なり明さハ多すさ一本挟むよ大柱の面ハ拾よ割壹分

藥殿門之圖やくどの見



一側軒出ハ大間中江樫ニ十二打時ノ割合ニテ
九シホシ右ノ割ヲ出シ側出定ユルナリ

大柱裏自程

柱見付寸五分

一柵太サ内内二十四割一分見附見込

高サ内法ハ八寸五分但シ間舛下ハヨリ
跳放シ上ハ常ルナリ

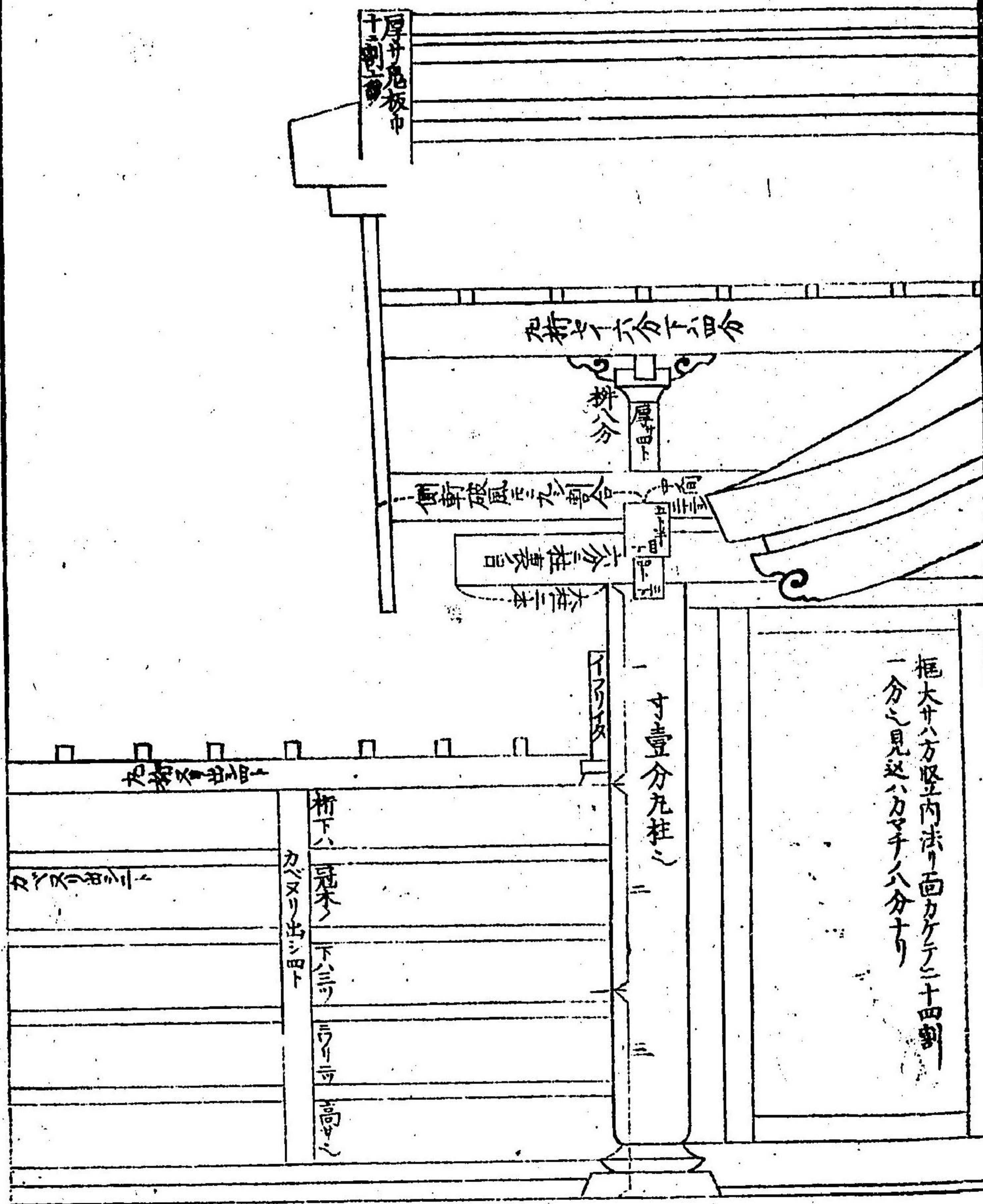
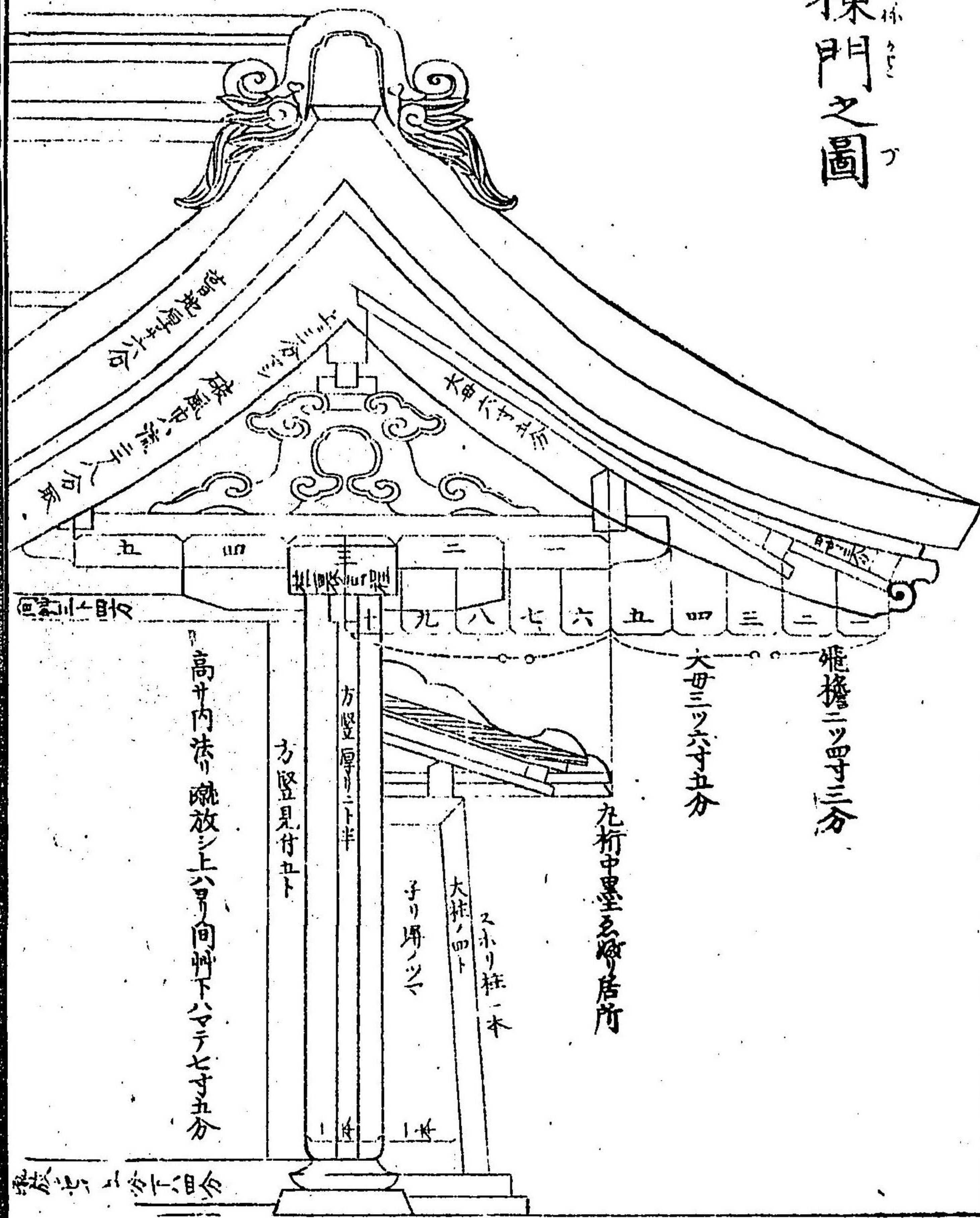
横放シ六寸五分下六寸四分

薬醫門之事

一柱の大サ大間よて寸五分取見込ハ大柱十よ割六分蹴放シ
 勢五分半下バ四分間艸三分四方高内法ハ八寸但間艸下
 バより蹴放上バよ當るよ扣柱大サハ大柱の五分角柱之面
 ハ十面扣貫幅ハ扣柱の面内之厚サ扣柱三ッ割壹分之大梁
 勢六分下バ四分之目梁勢五分半下バ三分半冠木勢六分
 下バ九分之冠木鼻の出ハ大柱裏の目程出る之九折居所
 ハ扉開て扣柱の内よ二分釣明有様よ作る之九折勢五分

半下端四分化粧棟居所ハ冠木内面と化粧棟外面と見通
 よ合様よ作る之極大サ大柱七ッ割一分之勢二分増茅負勢極
 下バ二本の角之裏甲厚サハ極勢程之幅ハ茅負二枚之化粧
 勾配六寸五分破風幅ハ流よて八分取上よ三分増及ハ幅
 よて八分葺地厚ハ六分野勾配引渡七寸緩四分極打様ハ
 大間よ二十二側軒よ九之但極の間壹尺の歩ハ右の
 本割合と以軒の出定る之扉割様ハ大間内法よ廿四よ割一分
 框大サ見込ハ框八分八分拵の大八分八双長サ扉幅三ッ割一ッ

棟門之圖

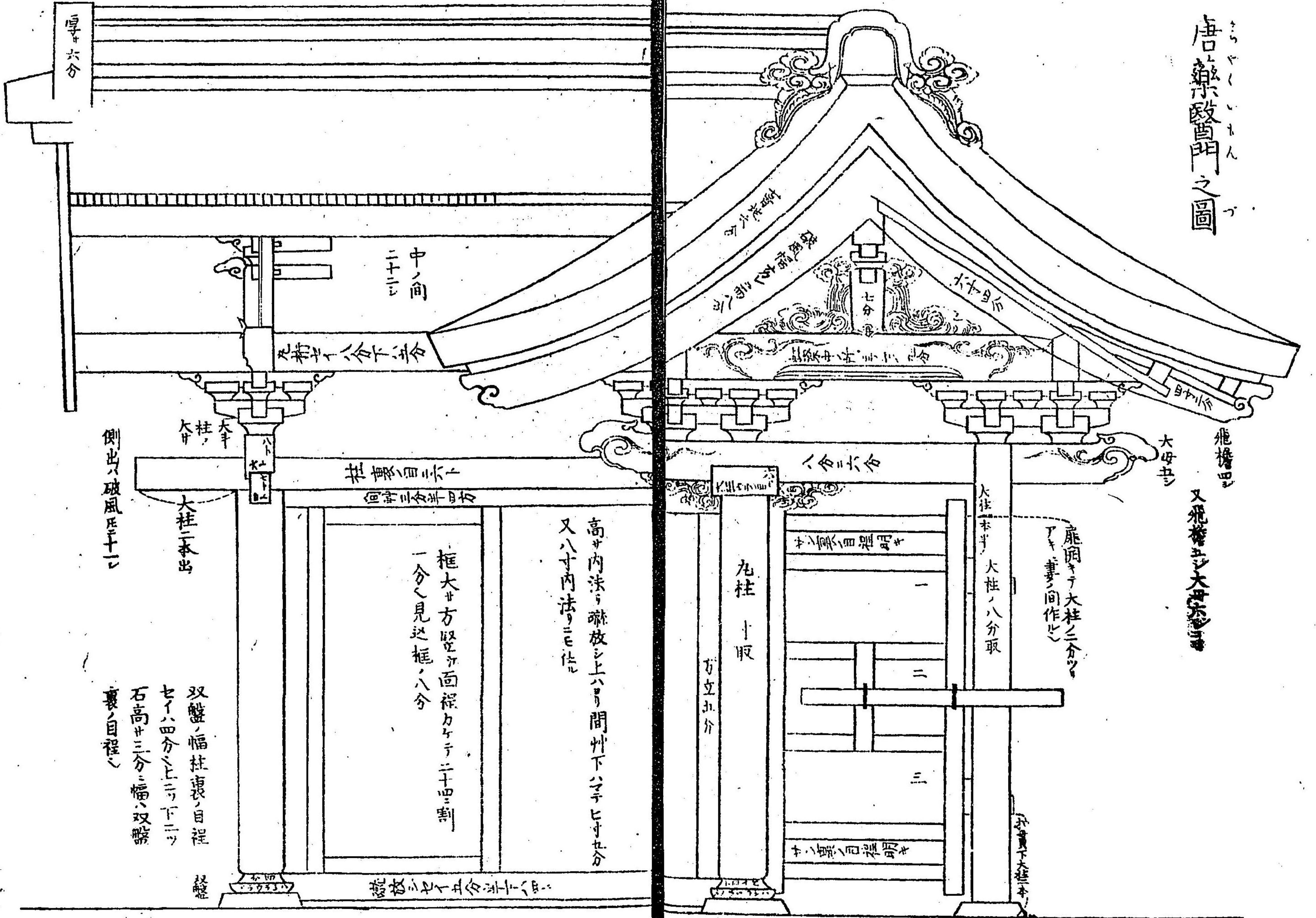


棟門之事

一柱の六寸壹分九柱なり大梁勢五分半下バ四分目梁せい
 五分下バ三分蹴放せい五分下バ四分間艸三分四方かぶ
 木厚サ六分幅柱裏の目方豎見附五分見込二分半内のり
 高サ七寸五分又八寸蹴放の上端より間艸下バ當るなり
 妻の間桁中墨ハ柱裏の目五ツどかけて桁中墨よ定むるこ
 軒出ハ妻の間半分茅負外面よ致す右と五ツより大母
 三ツ飛檐ニツ之樺大サハ柱六ツより壹分なりせい二分ま

木負大サハ樺下とせいとニツ合て木負大サなり茅負大サ樺
 下バ二本四方なり桁せい六分下バ四分樹八分雲板厚サ
 三分目梁長サハ妻の間五ツより三ツ長サなり樺打様ハ大間
 二寸よても右二十二割合致軒出定むるし勾配六寸五
 分飛檐四寸三分破風の幅ハながきよて八分取葺地厚サ
 六分鬼板より合ハ破風板腰よて二枚四方なりむまも二
 枚なり鬼板鏡五ツより中三ツふち壹ツなり

唐樂教門之圖



又飛檐大母

大母

扉閉キテ大柱ニ介ツ
アキ妻ノ間作ル

大柱ノ八分取

九柱 十取

方立五分

高サ内法ヲ嗽故シ上ハ間州下ニヒ寸九分
又八寸内法ニモ法

框大サ方取ノ面程カケテ二十四割
一分ノ見込框ノ八分

双盤ノ幅柱裏ノ自程
七一八四分ノ上ニ下ニツ
石高サ三分ノ幅ノ双盤
裏ノ自程ノ

側出ノ破風五十二

大柱ニ本出

厚サ六分

中ノ向
二十二

大柱ノ八分取

柱ノ四寸一
徑ノ四寸五分

大柱ノ八分取

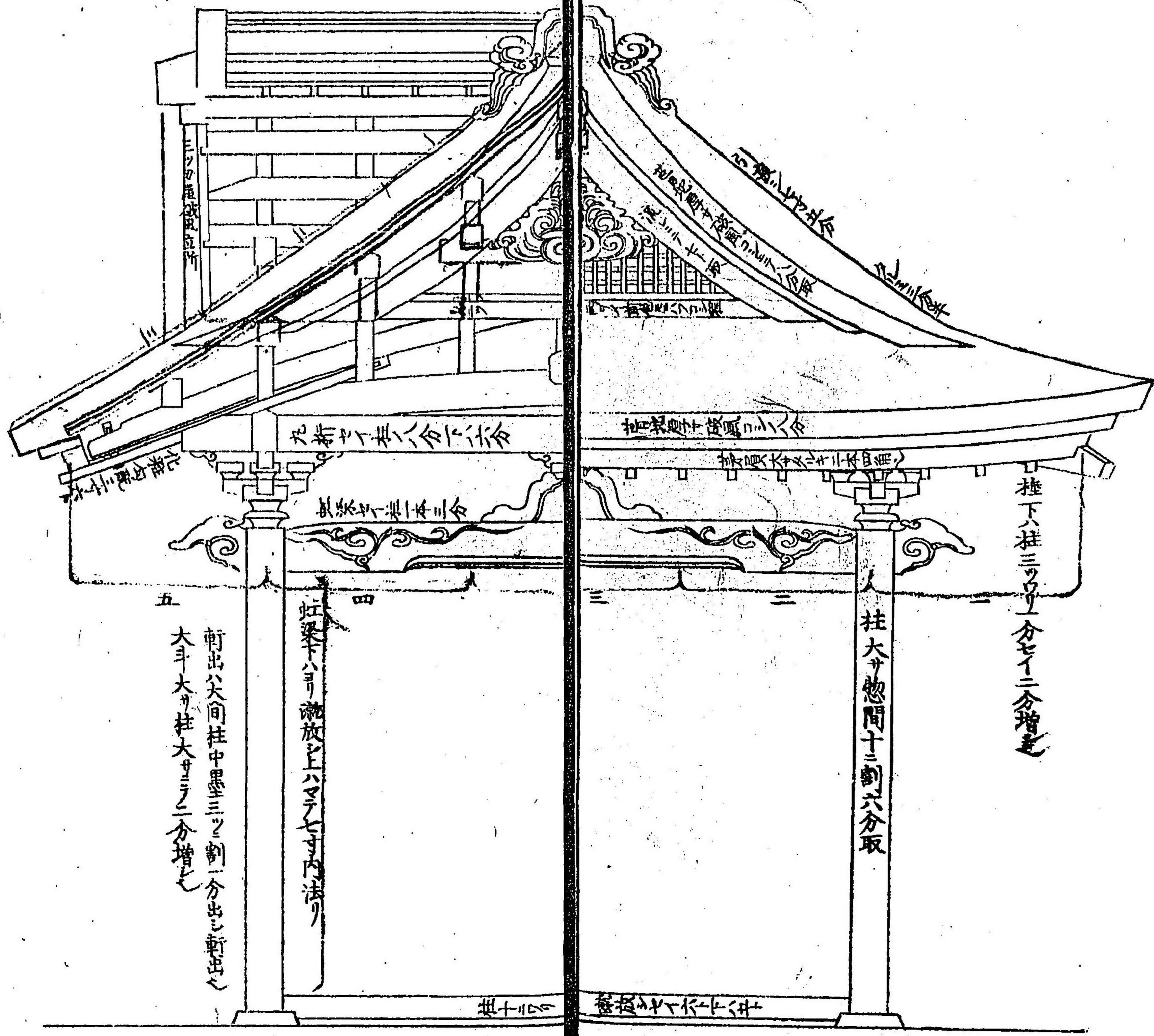
柱ノ四寸一
徑ノ四寸五分

唐藥醫門之事

一柱の大間にて寸取丸柱之扣柱八分取扣貫幅ハ扣柱の面
 内之厚サ扣柱三ツより壹分ノ蹴放シ勢五分半下端四分間艸
 三分半四方方豎五分厚サ二分半高リ内法ハ七寸五分又八
 寸よも致シ蹴放シ上バより間艸下バヨ當る之妻の間の割
 合ハ扉開きて扣柱内面ヨ二分釣明さ有る様ヨ作るなり
 冠木勢六分下ハ柱裏の目大梁せい八分下端六分目梁勢
 七分下バ四分九折せい八分下バ五分妻柱梁せい中の所

よて九分推打様ハ大間ヨ北ニ側軒十一シ勾配六寸四分飛
 檐四寸二分軒出ハ九シ大母五シ飛檐四シ破風作り様ハ流を
 小く幅八分葺地六分大平束七分双盤幅柱裏の目程厚サ
 四分上ニツ下ニツ之冠木鼻出ハ柱二本出シなり扉ヨり合を
 方豎ヨ面かけて内法二十四ヨ割框見附之見込ハ框の八
 分之大斗大サ柱程ヨ拾ヨ割六分勢之右と五ツ割くりニツ志
 さまん一ツ之根肘木大サハ大斗幅ニツ割壹ツ勢二分増卷斗
 大サハ大斗の六分之右と十ヨ割六分高サ之割合ハ大斗の如

二間半玄關之圖



柱下六柱三ツツ分セイ二分増是

柱大サ惣間十二割六分取

柱下八寸離放上ハマテ七寸内法リ

軒出ハ大間柱中黒三ツ割一分出ニ軒出ニ
大斗大サ柱大サニ二分増是

二間半玄關之事

一柱の大サ大間中墨十より右の壹分又十より六分柱の
大サなり蹴放しせい六分下バ五分虹梁せい柱壹本三分下
バ柱の六分負のかき様ハ虹梁せい十より下壹ツ次一ツ
又壹ツ半なり高サ内のりハ蹴放し上バより虹梁下バまで
七寸内法軒出ハ大間柱中墨三ツより壹分軒出茅負外よ
定むるなり極大サ柱三ツより壹分せい二分増茅負大サと
極二本の角なり裏甲厚サハ極せい程幅ハ茅負二枚なり

葺地ハ破風の腰よて八分の厚リなり隅木大サハ極下バ二
本せいも極のせい二本なり茅負及リハ茅負壹枚程なり
鼻ヨ壹分増あり裏甲鼻よも壹分の増あり九折せい八分
下バ六分化粧勾配三寸六分破風立所ハ三ツ母屋なり破
風幅ハながまよ七分取なり上よ三分増あり前包幅ハ
破風の腰よど右と三ツより壹ツ雨蓋の厚サなり前包二ツ
なり吉連格子大サハ懸魚幅よ七本立なり懸魚大サハ破風
こし二枚の幅なり野勾配引渡し七寸五分なり大斗大サ

123
2
69

柱^いよて二分増^まし右と拾^とふ割^{わり}せい六分^り

匠家

十九

